

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	2年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①「学び直し」の機会保障を前提に、生徒が授業の中でICT活用と同時に、主体的に他者と協働して取り組む活動を実践する中で、学習習慣の定着を図る。 ②学校行事及び生徒会活動等を充実させ、生徒が主体的に取り組む姿勢や新たなことにチャレンジする気持ちを育てる。	①「学び直し」から始めるとともに教科指導でICTを活用し、生徒が主体的・対話的で深い学びの実現に向かうよう根強く指導する。 ②生徒の提案と現状を考えながら、安全に学校行事を行えるようにする。また、それぞれの活動の目標や目的を明確にして実施できるようにする。	①授業に活用できるICT機器は充実してきているので、授業展開だけでなく評価の方法も含めて活用を検討し実践していく。 ②生徒の考えを集約したり他校の情報を集めたりして、新しい内容の学校行事を作り上げられるように企画・運営する。	①「学び直し」の機会の保障をICT機器の活用を通してできたか。生徒の主体的・対話的な学習の姿勢を引き出し、伸ばすことができたか。 ②数多くの考えや情報を集め、新たな取り組みに生かすことができたか。また、安全に学校行事が実施できたか。					
2	生徒指導・支援	①人間性や社会性の涵養を図るとともに、法律・ルール・マナーを遵守し、基本的生活習慣を身につけた生徒の育成を図る。 ②部活動や委員会活動、地域連携などの活性化を図り、生徒の自己肯定感を育みながら、それぞれの活動を通して責任感、協調性を伸ばす。	①自己肯定感と他者への思いやりの心を育てるとともに、規律と責任ある行動を実践できるように社会の一員としての自覚を涵養する ②部活動の加入者を増やす取り組みや委員会活動、地域貢献活動などの目標を設定し、充実した活動にできるようにする。	①教育相談組織等と連携して「いじめ」「人間関係の不調」の早期発見に努める。SNSの使用も含め正しいコミュニケーションスキルの育成に努める。 ②部活動紹介を工夫したり、委員会の取り組みを増やすことで生徒の参加を増やせるようにする。また、地域貢献活動への積極的な参加を促す。	①「いじめ」案件、年間0件を目指す。「SNSの不適切な使用」年間5件以下を目指す。 ②それぞれの活動内容が充実したもので、目標を達成することができたか。					
3	進路指導・支援	①学校全体で取り組むキャリア教育の充実を図り、生徒一人ひとりの社会性を養い進路実現を支援する。	①生徒が自らの進路を考え、実現へ向けてどのような行動をとっていけばよいのか、キャリア形成に必要な知識・能力等を、経験を通して身に付けられるようにする。	ア) 進路ガイダンスや校外学習を行うこと、校内の掲示物を充実させることで、進路について考える環境を作る。 イ) 全教員、SCC、SSW等と協力して、全生徒に対してきめ細かな面接練習ができる支援体制を築く。	ア) 3年間を見通した計画的な進路ガイダンス、校外学習、掲示物を充実させることができたか。 イ) 3年生全員に対して、各面接担当者が、一定以上の統一した内容の進路支援ができたか。					

	視点	2年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	①広報活動の充実に取り組み、地域や中学生に本校の魅力・特色に関する情報を積極的に発信する。	①地域や中学生への広報活動の内容を、質、量共に充実したものにす。	①学校ホームページやXの更新・投稿を増やしていくことと、学校行事や日頃の活動等の情報発信を行う。	①学校ホームページ、Xの更新回数を増やし、生徒の様子や活動内容を伝える広報活動ができたか。					
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な学校づくりに努め、事故・不祥事を未然に防ぐ自覚を持つための取組を、継続的に行う。 ②心のゆとりをもって生徒支援や学校運営に携われる、教員の働き方改革を推進する。	①安全・安心な学校づくりに努め、事故・不祥事を未然に防ぐ自覚を持つための取組を、継続的に行う。 ②ワークライフバランスの実現に向けて取り組む。	①例年課題となっているテーマの研修を定期的に行うとともに、新たな課題が生じたときにも随時研修を行い、継続して事故・不祥事の未然防止に努める。職員の当事者意識を維持するため、各グループ主体の取組を継続する。 ②長時間勤務の状況を把握すると共に、職員とのコミュニケーションを密にし、心身の不調等の早期発見に努め、産業医との連携を図る。	①定期的な研修により、過去の事例を確認する等、具体的に事故が起こりやすい場を共有することができたか。また、職員間で連携を密にとることができたか。 ②職員の心身の不調等を把握するため、個別相談等を実施できたか。また、必要に応じて産業医による面談に繋げることができたか。					